様式7（市教委報告用）

4三鷹大沢台発第153号
令和5年3月3日

三鷹市教育委員会　様

校長　藏野　貴通
（公印省略）

令和4年度　おおさわ学園　三鷹市立大沢台小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価　※学園内で統一記述

今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること	来年度の重点課題を解決するための改善方策
学園・学校アンケート項目「家で読書していますか」児童・生徒の肯定的回答は、小学生56.5%中学生38%保護者の肯定的回答は、小学校49%中学校37%と最も低いものだった。読書は、メリットも多く、特に小・中学校時代において大切な活動と考えている。 また、同じく「コミュニティ・スクール委員会の活動や役割を理解している」保護者の肯定的回答は、小学校54%中学校53%だった。「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ」の実現に向けて周知を継続していく。	・「読書活動」について 読書の有効性の周知、学校での「朝読書」の継続、放課後等を含めた図書館の有効活用、「図書館だより」や「読み聞かせ会」等の充実を図る。 ・「コミュニティ・スクール委員会の活動や役割を理解」について 広報の充実をはかる。「コミュニティ・カレンダー」や各種検定等「地域学校協同活動」の組織化を受け、多くの保護者や地域住民のかかわりを広げていく。ホームページ等も活用し一層の周知徹底を図る。

学校評価　※学校ごとに記述

今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を踏まえて記述	来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を踏まえて記述
1　学校3部制の第2部の充実 2　児童の主体性の更なる充実 3　学力向上 4　体力向上 5　議論する道徳の充実 6　家庭学習（学年×10分）の徹底 7　生活指導（整理整頓）の徹底 8　児童の自己肯定感・自己有用感の向上 9　働き方改革の更なる推進	1　朝遊び・教室開放・夕涼会の拡充 2　今年度も合唱祭を決める。児童の各委員会活動において、主体的な活動に取り組ませる。 3　算数ベーシックドリルの徹底（年度内に基礎学年のドリルを全部取組む。夏休みの課題として前学年のものを取組む） 読書活動の推進・放課後の補充学習・夕涼会 教員の事象思考ツールの研修 4　自己の体力の調査を継続で・中休み・放課後開放で解決させる。 中休みを6分延長して35分とし、遊びや運動する時間を確保する。 5　議論する道徳の手法をOJTで研修する。 6　家庭との連携強化。宿題が終わったら読書の習慣を付けさせる。 7　朝の会で道具箱等の整頓習慣を徹底させる。 8　子どもファースト・子ども主体の学校づくりの充実。児童の活躍・発表させる場の拡充 9　金曜の清掃、放課後の時間確保、校務分掌の効率的な運営、学年間等の教科担任制の強化、職員の活用

取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方策	学校の経営目標（中期目標）	今年度の重点目標（単年度目標）	今年度の重点目標を達成するための具体的方策	第1回評価 取組	第1回評価 成果	第2回評価 取組	第2回評価 成果	自己評価（第2回）	学校関係者評価（第2回）
コミュニティ・スクールの運営	1.CS委員会及び学園の広報活動の充実 2.「コモンズ」としての学校、「学校3部制」への取組み	・学園3校の児童・生徒の有志(通称「SAC」)と教員、CS委員が協働して、国立天文台の協力の下、「おおさわスクール・コミュニティカレンダー」の作成に取り組むことができた。 ・デジタル・シティズンシップ教育に関する熟議では、学園3校の代表児童・生徒、教員、CS委員がそれぞれの立場から活発に意見交換することができた。 ・コロナ禍であっても、放課後地域子どもクラブ「大沢けやきッズ」「羽沢ろんるん」の活動がより充実してきている。	【課題】 ・おおさわ学園のHPの更新率が低く、発信が少ない。 ・スクール・コミュニティの推進に関する教員の理解及び意識が高くない。 【改善方策】 ・学園HPの担当及び役割を明確にし、更新率を上げていく。 ・CS委員、教員、児童・生徒で、天文台を中心としたまちづくりや学校3部制についての熟議を実施する。	人間力・社会力の育成	1　CS委員会と連携・協働した教育活動の充実 2　コモンズ・学校3部制の推進を通した「スクール・コミュニティ」の創造	1　課題解決型学習を通して、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善を図る。 2　学習用タブレット端末を活用し、個別最適な学び、探究的・協働的な学びを推進する。 3　未来塾、算数サポート等と連携して、学力の向上を目指す。	1　児童が楽しく学び合い、どの児童も分かる授業を実践する。 2　ICT研修を通して、学習用タブレット端末の活用方法を学び、授業で実践する。 3　補充学習や未来塾、算数サポート等を活用し、基礎・基本の定着を図る。	1 (52.4%) (71.4%)	2 (84.7%) (74.9%)	2 (90.9%) (68.2%)	3 (87.8%) (77.3%)	1　2学期に学園研究や校内研究の授業や、教員の授業観察を多く行ったため教員の取組数値が高まった。そのため児童の達成度や学びとして成果が顕著に表れている。カリキュラムに位置付け、来年度も継続する。 2　大沢けやきっずの取組は充実しているので、今後も児童がより活用するようにしていく。来年度は、放課後の図書館開放で学習や読書ができるようにしていく。	・妥当である。(12) ・行事再開が児童の達成感も上がる→今後も日常を取り戻します。 ・けやきっずの周知に対する対応が必要→今後の運携も強化していきます。 ・けやきっずの取組を拡充していくには安全管理者の確保が重要。地域に呼びかけを→保護者にも声を掛けています。 ・教員が「大沢けやきっず」の取組活動をもう一度よく理解する機会を設け、教員が児童を放課後活動に継なげる事が出来たら、児童保護者も安心し参加出来、取組評価も上がると思う。→自己の体力向上に向けた具体策を考えさせ、朝・中休み・授業・放課後・家庭を活用させます。 ・教員の前向きな取り組みが現れた。2.は鉄を言えば、けやきっず以外の放課後の居場所を与え、子ども達に選択肢を与えたい。図書館開放は有効だと思う。→学校3部制の第2部をより充実させていきます(教室開放等)。皆様、興支援よろしくお願いいたします。 ・大沢は子供の居場所が少ないため、居場所を選択できる環境を整えていきたい→星と森と絵本の家・西部図書館・コミセンの利用を促していきます。 ・引き続き、地域人材・資源を活用した授業・指導をよろしくお願いします。
小・中一貫教育校としての教育活動	1.「地域人財・資源の発掘と活用～地域の力を児童・生徒の学びへ～」を研究主題に学園として研究に取り組む。 2. 小学校と中学校、小学校同士の交流活動の充実。	・三鷹市教育研究協力校としての1年目の学園研究の取組として、国立天文台やICUをはじめとする大沢地域にある施設や関係者との交流を通じて、教員の地域理解を深めることができた。 ・コロナ禍にあっても、3年ぶりに対面での「ふれあい音楽交流」「部活動体験」などの学園間の交流活動をほぼ計画どおりに実施することができ、学園生の仲間意識を高めることができた。	【課題】 ・地域人財・施設に対する理解は深まったが、その活用の実践は多くない。児童・生徒の学びにつながることの検証がまだできていない。 ・相互乗り入れ授業に対する教員の意識の差があり、その効果を共通理解できていない。 【改善方策】 ・地域人財・施設の活用の実践を計画的に積み重ね、その効果を、児童・生徒の学びに視点を当てて検証し、次年度研究発表をする。 ・相互乗り入れ授業のねらいを明確にし、全教員が共通認識のもとで実践を積み重ねていく。学期ごとに振り返りを行い、その効果を検証し、改善等を図っていく。	学園・学校運営	1　おおさわ学園小・中一貫教育の強化と学園研究の推進 2　交流活動や子ども熟議を通して、学園生としての意識や一体感を高める。	1　自他を大切にする心を育て、豊かな心を育成していく。 2「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組を徹底する。 3　学習用タブレット端末を活用し、デジタル・シティズンシップ教育を推進する。	1　自分の考えをもち、議論を通して学び合う授業を実践する。 2　児童に自信をもたせ、自己肯定感や自己有用感を高めていく。 3　学習用タブレット端末を活用し、オンライン学習の推進、家庭学習・放課後の学習の充実を図る。	2 (52.4%) (100%)	3 (84.7%) (84.7%)	4 (90.9%) (95.5%)	3 (87.8%) (80.4%)	1　同上 2「大沢台は笑顔の宝箱」という合言葉のもと、運動会や音楽会等の行事や日々の生活や学習において子ども主体の学校創りの取組ができたため、90%以上の高数値がでた。子どもの達成度は80%台のため、より達成感や満足感を味わえるよう活躍の場や工夫が必要である。	・妥当である。(14) ・おおさわ学園の子ども達が弱いとされてきた「主体性」が上がっているのが素晴らしい。子ども主体の学校づくりを学園内で共有してほしい ・去年と比べ活動の場が広がったのが満足度につながっている。 ・子どもたちの達成感や満足感はその後の成長の糧になると思います、引き続きよろしくお願いします。 ・「おおさわ学園カリキュラム」取組評価が大幅にアップしているが、取組に伴う結果が出ているのであれば取組方法等を学園で共有して欲しい。 ・児童の達成度を上げる為に、児童に早めに周知して考え話し合い準備し反省する時間をもう少し与えてみてはどうでしょう。→今年度中から話し合いを行わせ考えさせていきます。
（知）確かな学力	1.「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 2. 学習用タブレット端末を活用 3. 補充学習等	・教員は学習用タブレット端末・及び短焦点プロジェクタを効果的に活用しながら、授業を進めている。児童・生徒も学習用タブレット端末が導入されて丸2年が経ったため、これまでとは大きく授業の様相が変わり、授業や家庭学習等での使用頻度が増えており、スキルも高まっている。 ・みたか地域未来塾や夏季補充学習において、計画的に補充学習を行い、参加者は自分の課題を克服し、学力を高めている。 ・学習に対する児童・生徒の満足度は、80%を超えており、数値が高い。	【課題】 ・学習用タブレット端末や短焦点プロジェクタの活用に関して、教員間の差がある。 ・個別最適な学びを十分に図られていない。 【改善策】 ・学習用タブレット端末等を活用して成果を上げた実践事例を、学園の教員間で共有しながら、系統立てたカリキュラムを構築していく。 ・個別最適な学びができるようにしながら、だれ一人残さずに確実に学力を向上させることを視点として授業改善を進めていく。	小・中一貫教育校としての教育活動	1「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善 2　学習用タブレット端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進 3　補充学習の充実	1　おおさわ学園の生活の5本柱の定着を図る。 2　児童の体力の課題を明確にし、体育や日頃の体育的活動で解決させていく。	1　課題である「家庭学習学年×10分」・あいさつや「言葉遣い」・「時間を守る」の改善に重点的に取り組む。 2　なわとび等の体育的な活動の日常化、外遊びの励行を通して、体力向上を図る。	2 (90.5%) (95.2%) (47.6%)	2 (83.5%) (87.5%) (65.1%)	3 (95.5%) (100%) (45.5%)	2 (90.9%) (79.1%) (66.4%)	1・2・3 教員の学習用タブレット端末の活用や指導方法の工夫により授業改善が進み、取組数値が90%を超え、児童の授業の満足度・成果としては向上した。しかし、国や都と比べて学力が低い傾向にあるので来年度は、以下の対策を講じる。 ①地域人財・施設の活用や地域の方々とのふれあいを通した体験的・探究的な学習の継続と充実 ②読書活動の推進 ③算数の思考ツールの共有化による授業改善 ④放課後の補充学習や家庭学習の充実	・妥当である。(12) ・タブレット端末の活用に地域の行事などの参加で人材の掘り起こしを ・教員の取組評価に対して児童の満足度が今一つなのは、「わからん授業」の実感が低いのか？ICT活用を活用しながらも、「基礎学習の定着」を家庭と連携して図る必要がある。CSとして、今一度「家庭学習の重要性」を訴えていく→各ー補充学習・家庭学習で東京ベーシック・ドリルや読書を徹底します。 ・タブレットの活用に関しては苦手意識から教員がこの足を踏んでいるようちに子ども達の方が情報先行してしまうことの無いよう、常にブラッシュアップを心掛けていって欲しい。学習の具体的な対策案がみて好感。 ・学力が低い傾向ではあるようだが、地域の方々とのふれあい経験は、豊富と思いたい。 ・探している人財があればCS委員会等でCS委員に声を掛けてもらえれば、紹介できる人財がいるかもしれない。 ・三鷹市内の他学校の良い事例を組み入れていくことも改善につながるのではと思います。→六小の体育的活動の取組・他校の朝読書等を取り入れていきます。 ・教員の授業改善取組姿勢を評価します。生徒はーついて来ていますか？タブレットを通してだけでなく一人一人と対面で向き合う事も大事にして下さい。→タブレットだけでなく、読書・教員との会話や遊びなどコミュニケーションを大事にしていきます。
（徳）豊かな人間性	1.「考え、議論する」道徳の充実 2. 生活指導と教育相談の充実 3. デジタル・シチズンシップ教育	・「デジタル・シチズンシップ」等での熟議経験や日常の「話合い活動」の充実などを通して、「考え・議論する道徳」の授業に対して、その身に付けた力を発揮できるようになってきた。 ・道徳授業の充実を図り、道徳的実践力を育成することを通して、児童・生徒の自己肯定感、自己有用感を育むことができた。 ・「地域の子供は地域で育てる」の思いをもって、CS委員会をはじめ、学校に積極的に関わっていただいている地域の関係諸機関との連携が、いじめの未然防止、児童・生徒の健全育成につながっている。	【課題】 ・道徳の授業改善への教員間の意識の差。 ・SCへの相談件数が多く、悩みや不安を抱える児童・生徒・保護者も含め、対応が必要。 【改善方策】 ・教員の意識を高めるために、学年間での日々の情報交換やOJT研修、授業改善推進プランの活用で改善を図っていく。 ・いじめや問題行動の予防と早期発見・解消、さらなる改善として教育相談や教育支援の充実、即対応できるシステムの構築を目指す。	児童・生徒の学力・健全育成	1「考え、議論する」道徳の充実 2　心の教育の充実 3　デジタル・シチズンシップ教育の充実	1　学園研究・校内研究を通して地域人財・施設を効果的に活用し、児童の学びを深める。 2　代表委員会等を中心に、児童が主体的に動かす学校を目指す。	1「おおさわ学園カリキュラム」に沿って、地域人財や施設を活用した授業を行う。 2　代表委員会や各委員会、係活動や学習等を通して、児童が主体的に周りに働きかける活動を推進する。	3 (76.2%) (95.3%) (95.2%)		3 (63.7%) (97.8%) (100%)	2 (70.5%)	1・2・3 教員の議論する道徳の授業改善は、まだまだ足りない。しかしながら自己肯定感や自己有用感を高めていく指導や支援を丁寧に継続した結果、いじめの認知数の減少（昨年度53件→今年度15件）につながっている。今年度の15件のも、10件は解消し、5件が解決に向かい良好な関係である今の現状を見守っている状態である。 子どもたちが全体的に落ち着いているのは、豊かな自然や温かい大沢の地域性も大きく子どもたちや学校を包んでいることも影響は大である。今後も、いじめの未然防止に向けて一人ひとりや学級・学年・学校全体としての自己肯定感を高めていけるよう子ども主体の学校創りを継続する。	・妥当である。(11) ・いじめの解決策は個々の対応が遅う中いじめの認知数が減少していることを教員の努力を感じ評価する ・議論を通して学びある授業の実践に対する数値が低いので、対応をすべき→OJTで研修します。 ・「自己有用感」が上がると、いじめが減るという良い連鎖が見られた。いじめの質も変わってきていなので、中学校で抑えれないように引き続き見守りが必要 ・いじめに関しては個別対応は言わずもがなだが、授業内の指導でいじめの未然防止策打っていく努力は素晴らしい。 ・リモートでの授業を行うに当たり、マナーやルールを家庭と一緒に学んでいただきたい。→セーフティ教室で保護者にも学んでいただきます。 ・自分の意見や思いを口にする子は多いと思うが、場にあった言い方伝え方が上手くない。それを教えるのも学校という場なのかもしれない。→発表や議論を通して、自分の意見や考えを伝えられるコミュニケーション力を高めていきます。 ・引き続き、子供たちそれぞれの状況にそって支援いただければと思います。 ・いじめに対しては無理でも解消率100%が目標であるべき。今まで通りの取組をよろしくお願いします。
（体）健康・体力	1. 基本的生活習慣の確立及び新しい生活様式の徹底 2. 体力向上。	・小学校では持久走記録会、中学校ではマラソン大会を継続していることもあり、新型コロナウイルス感染症のため体力低下といわれる中でも、体力テストでC以下の子どもの数が、「持久力」に関しては、比較的高い水準を保てている。 ・学習用タブレット端末を活用して、毎日の検温に加え、本日の気持ち等も入力できているため、自身の健康に関する興味・関心への意識は、コロナ禍に入る前より確実に高まっている。 ・来年度に向けて、体力向上に関する全体計画・年間指導計画を作成することができた。	【課題】 ・中学生は特に部活引退後の体力向上の取組を図りたい。 ・体力向上は理解しているものの、具体的行動に表れてこない。 ・規則正しい生活が定着できていない児童・生徒がいる。 【改善方策】 ・家庭でもできる体力づくりの取組を紹介するなど、「運動の日常化」が図れるようにする。また、休み時間等を活用し学校で外で活動機会を増やし、そこで体力向上の取組ができると、運動をしない児童・生徒にも運動をしようとする意識をもたせられる。 ・健康教育の中で、規則正しい生活（早寝・早起き、食事等）をするとどんなよさがあるか、児童・生徒自身に考えさせて、学習が実践に結び付くようにしていく。		1　基本的生活習慣・新しい生活様式の徹底 2　体力向上	1　CS委員会と連携し、地域人財・施設の発掘や活用を充実させる。 2　CS委員会等と連携しながらコモンズ・学校3部制の更なる充実を図る。	1　CS委員会との合同会議や連携を通して、地域人財・施設を活用した授業を行う。 2　校庭・体育館開放等の大沢けやきっずの取組を児童・保護者に周知する。	3 (78.6%) (85.7%)	2 (77.7%) (77.2%)	3 (73.8%) (95.4%)	2 (79.1%) (75.5%)	1　家庭学習の「学年×10分」は非常に数値が低く、来年度の重要課題である。あいさつ・言葉遣い・時間はある程度の成果が表れている。整理整頓は来年度の課題である。 2　朝遊びも充実し、中休み・昼休みに校庭で遊ぶ児童の人数も増えている。遊びを通して大勢で遊ぶ児童の集団が増え、大勢の仲間と遊ぶ楽しさを共感でき、コミュニケーション力が高まっている傾向にある。朝遊びは来年度も継続し、大沢けやきっずに委託していく。	・妥当である。(14) ・児童の活発な行動が体力にもつながっり遊びの大切さを思う ・基本的な生活習慣や家庭学習の定着がいかに重要か、家庭に伝えていく努力をCSでも行う。児童に「自分たちで遊ぶ力」を通して体力・知力をつけてほしい→来年度は体育委員会主導で朝遊びを行う予定です。 ・外遊びに向かう子ども達からあいさつをされることが多くなった。朝活で気持ちに余裕がでてきたのかも。 ・春待の教室は、ぴっくりするほどもんが散らかっていることがある。クラスによっては、忘れ物箱があり、名前が書いてあるのに引き取らないでいる。たまに業箱を忘れた子が筆記用具を使っているようで、利用者はいる。→帰りの会で整理整頓の時間を取ります。 ・子どもたちが体を動かす機会として、朝遊びの取り組みは是非続けていっていただきたい。→はい、継続します。 ・家庭学習の必要性を子供達で考えてもらうことも、課題解決のひとつになるのでは無いでしょうか。学校で遅べる時間を増やすことは良い取り組みだと思います。引き続き、よろしくお願いします。→家庭学習は代表委員会、各課題を各委員会活動に振り分けて考えさせていきます。 ・朝遊びの取組は挨拶やコミュニケーションや健康の上でも良い取組だと思う。引き続きお願いします。
特色ある教育活動	1. 教育支援及び教育相談の充実を図る。 2. 学園として継続性のあるキャリア教育に取り組む。 3. 防災教育	○目標1について ・市任用のSCを中心に各校の情報交換を図るとともに、養護教諭も関わり、教育支援の充実を進めることができた。 ・市教委巡回発達相談員の澤地都志子先生を講師に招聘し、8月26日（金）の教育支援研修を実施。発達障がいに関する知識や支援について、一層理解を深めることができた。 ○目標2について ・おおさわ学園で使用する「キャリア・パスポート」について9年間継続して活用できるよう工夫・改良を行い、系統的・継断的なキャリア教育の充実を図ることができた。 ○目標3について ・5月7日（土）におおさわ学園引き渡し訓練を行ったとともに、10月2日（日）の三鷹市総合防災訓練に小・中共に参加し、防災意識を高めることができた。	○目標1について 【課題】学園としてSCを中心に児童・生徒の支援について情報交換を行い、改善を図っているものの不登校児童・生徒の数は依然として減少していない。 【改善方策】家庭支援の必要なケースが多いので、民生児童委員等の連携を図り、家庭の見守りの強化を図るとともに、子ども家庭支援センターや児童相談所の機能役割について、研修会を実施し、教職員の資質・能力の向上させる。 ○目標2について 【課題】キャリアパスポートの作成は定着しつつあるものの、実際の生活の場面で働く意義や勤労意識を高める取り組みが少ない。 【改善方策】新型コロナの状況も踏まえながら、総合的な学習の時間や学校行事で勤労体験をするとともに、地域との連携してボランティア活動の充実を図る。 ○目標3について 【課題】防災意識高まっているものの、自然災害に対する理解は十分と言えない。 【改善方策】土砂災害警戒区域等の危険マップの作成に中学校も取り組む。	コミュニティ・スクールの運営	1　教育支援・教育相談の充実 2　生き方・キャリア教育の充実 3　防災教育の推進	1　教育支援コーディネータを中心に、SCと連携しながら児童の情報を共有し連携を強化する。 2「キャリア・パスポート」の活用を通して、夢や生き方について考えさせる。 3　自分の命を自分で守る意識を高める。	1　教育支援校内委員会を定期的に行い、個に合った適切で迅速な対応を行う。 2　児童が夢や願いをもち、それを実現していく力を育成する。 3　防災訓練を通して、自分の命を守る具体策を学ばせていく。	3 (95.3%) (66.7%) (3100%)	2 (68.3%) (77.7%) (88.6%)	4 (100%) (72.7%) (100%)	3 (67.2%) (79.9%) (93.9%)	1　いじめや不登校、学級で困り感のある児童に対して、教員は信頼関係をつくり丁寧に個別に指導・支援をしていたが、児童の満足度はまだ低い。児童の心の悩みや不安を聞き出し、解決させていくことが必要である。とくに不登校児童については保護者とこまめに連絡・連携することで改善につながる傾向にあるので、継続していく。 2　運動会や音楽会など行事や学習において、目標や夢をもち、それに向けて挑戦し達成する場面が多くみられたので、良い結果につながっていると考えられる。 3　4年生が安全マップを作成し、全校朝会で各学級へ出張しポスターセッションで発表した。安全や防災に対する意識を高めることにつながった。来年度も継続する。	・妥当である。(14) ・学校行事、地域の行事への参加協力により達成感を感じる。教員の協力に感謝 ・不登校児童の家庭との連携において、保護者の不安などに地域で対応していける課題はないのか。安全マップや防災の児童発表、素晴らしかったです。地域の方に発表できる場も→学校公開にいらしていただきます ・2.に関しては大人からは成長を見て取れても、本人の自覚は大人から褒められないとわからないのかも。 ・この3年間、感染症対策などあり「学校に来る(行く)」事が、ウィズコロナの現在も当たり前でなくなっている要因気が残るのは、少し心配です。調べたことをポスターとして形にし、セッションの上に伝え、校内に掲示していることで、学習した内容だけでなく、達成感や満足感も得られたと思う。 ・2.に関しては、特に良い取り組みだと思います。 ・子どもたちが自ら考え、まとめ、発表する力を養うのは、社会にでてこの力が必ずつくると思います。引き続きよろしくお願いします。 ・長期的に取組を、急かせず焦らせず、一人一人の児童や家庭に向き合い、教員はいつでも味方で学校はいつでも居場所であって下さい。→児童・保護者に寄り添い、登校支援シートもきちんとお対応していきます。
学校の働き方改革	1. 働き方改革の推進	・学習用タブレット端末内の業務用ソフトの活用により、連絡・相談等時間を短縮することができた。 ・同タブレットの活用によって、ペーパーレス化を実施し、資料を印刷する等の時間を削減することができた。 ・会議の精選により、開催回数を減らし、その分教材研究や児童。生徒指導に充てることができた。 ・プリントの印刷や資料作成等に、副校長業務支援員やスクール・サポート・スタッフを効果的に活用し、超過勤務の状況が改善できた。	【課題1】学習用タブレット端末の使用に消極的な教員がおり、効率よく職務を遂行できていない教職員がいる。 【改善方策】GIGAスクールマイスター教員やICT支援員による講習会を実施し、学習用タブレット端末の使用について理解を図り、活用させる。 【課題2】中学校においては放課後のクラブ・部活動の指導の時間が超過勤務の要因となっている。 【改善方策】部活動指導員や外部指導助手を積極的に活用し、指導時間の短縮を図る。 【課題3】超過勤務をする教職員が固定化しており、学校全体としての働き改革の推進に結び付いていない。 【改善方策】教職一斉の定時退勤デーや同ウィーくを設定し、学校全体で働き方改革に取り組むとともに、ライフワーク・バランスに係る意識の啓発を図る。		1　学校運営の効率化 2　教員のタイムマネジメント力の向上	1　教員の組織的・効率的な学校運営を推進する。 2　教員のタイムマネジメント力を高め、勤務時間の短縮を目指す。	1　校務や会議を整理し、効率化を図る。 2　学習用タブレット端末や校支援システム、スクール・サポート・スタッフを積極的に活用する。	2 (76.2%) (81.0%)		3 (86.4%) (77.3%)	2 (74%)	1・2 2学期に職員会議を1回減らし、火曜日の職員夕会をなくした。学習用タブレット端末の活用、教員用パソコンの回覧板機能の活用、教材研究の教科別担当者制導入などで効率化が図られ、取組の成果が数値として表れた。来年度も会議の精選をし、放課後の補充学習の充実にあてていく。	・妥当である。(14) ・第一回より成果を感じます　会議を減らしても放課後の補修学習にあてるのでは職員の負担は減らないのでは→児童の学力向上は教員の職務です。 ・具体的な努力が結果に結びついた。 ・取組評価に対して、成果評価が低いのは、まだ他に先生方が時間を取られる原因があるのか→授業準備に時間をかけている。会議を精選し、放課後の時間を有効活用させています。 ・先生方の就業時間、働き方改革での注目で、働いている内容にしわ寄せがきてないかと心配にもなる。 ・まだまだ多くのタスクがある中で大変だとは思いますが、引き続きよろしくお願いします。 ・全体的に第1回より課題に取り組み評価を上げている事が良い。 ・項目ごとのパーセント表記もわかりやすくて良い。